

「支援は今が山」

タン被書
ス水被
キ水被
パ水被

AMDA 衛生状態の悪化憂慮

医療チームをパキスタン洪水被害の支援に派遣した国際医療救援団体「AMDA」（本部・北区）の菅波茂代表(63)は15日、「洪水は日がたつにつれて徐々に（医療支援の）ニーズが高まる。発生から1カ月以上たった今が山だろう」と述べ、緊急支援の必要性を訴えた。

AMDAアフガニスタン支部の医師らが今月初めから巡回診療を開始しているパキスタン北西部の難民キャンプでは衛生状態が悪

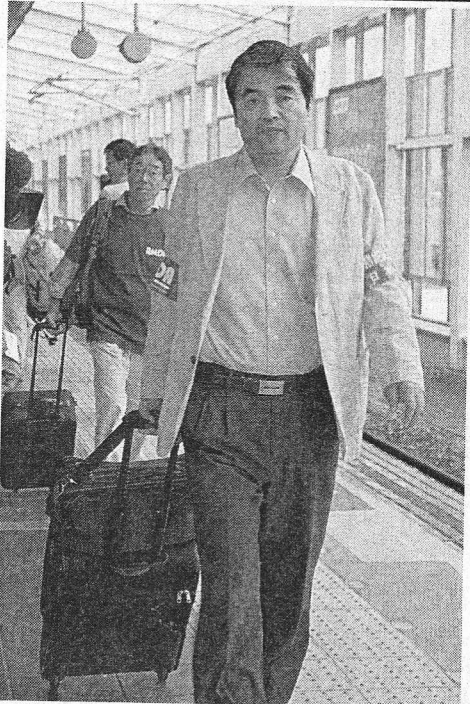
く、水たまりから蚊が発生し、マラリアが流行しているという。現地の情報から、被害が拡大していることを受け、日本から医療チーム派遣を決定した。AMDAによると、7月の大雨以降、パキスタンでは川の反乱による洪水のため約1700人以上が死亡、約1800万人以上が被災している。

医療チームは菅波代表のほか、荻崎祐一医師(66)▽渡辺美英看護師(51)▽土佐光章調整員(40)の計4人で構

成。別のNGOとともに今月10日までパキスタン入りしていた土佐調整員は「北部は水が引き、壊れたり水に漬かった家の復旧など冬への備えが必要。南部は感染症が懸念される状態だった。医療ケアを求めている人が多く、活動がうまくいくよう下支えしたい」と話した。

4人は10日から2週間活動して帰国する。AMDAは今月下旬にも医師ら3人を追加派遣する予定。

【椋田佳代】



パキスタンに向けて出発する菅波茂代表ら—北区駅元町のJR岡山駅で